

愛知県立芸術大学 文化財保存修復研究所

平成 26 年度のピックアップニュース

文化財保存修復研究所 とは？

愛知県立芸術大学において平成 26 年 4 月に設立され、地域文化財の継承・再生と、それに関わる人材の育成を目指しています。現在、模写事業で実績のある日本画部門が先行して事業を開始し、本学の大学院生と共に文化財の保存に努めています。

平成 26 年度は合計 5 件（8 作品）の受託事業が成立しました。これらの作品は複数年かけて修理するものも含まれるため、現在も作業進行中です。

2 年目となる平成 27 年度には、いよいよ専用施設建設が予定され、より効率的な運営が期待されます。将来的には日本画のみならず、油画や仏像などにも対象を広げ、芸術大学ならではの総合的な保存修復を目指し、運営を図ります。

保存修復受託事業—7 月、第 1 号の事業を受託



通常光

赤外線

文化財保存修復研究所では、外部からの依頼による文化財保存修復事業の受託を行っています。平成 26 年 7 月、地元長久手市内の寺院から、受託事業第 1 号となる依頼がありました。軸と屏風の依頼でしたが、黒茶色に変色して姿のはっきりしない軸の本紙を赤外線で調査したところ、肉眼では見えない墨線がはっきりと確認でき、その瞬間、歓声がありました。

人材育成—大学院生が現場で実習しています



文化財保存修復研究所の大切な役割の一つが、文化財保存修復に関わる人材の育成です。そのため、受託事業の作業では教員の指導のもと、学生が実際に文化財修理の現場で修復作業を実習する貴重な機会となっています。現場での経験を通して、文化財

広報活動—文化財保存への意識向上のために見学を受入



地域住民の文化財保存への意識向上を目指すとともに研究所の周知活動として、修復依頼者や所有者等との作業工程確認のために、研究所では事前確認の上で見学等の対応をしています。少しでも文化財を取り巻く環境が改善されることを期待しています。



表具修理の工程—折れ伏せ入れ



模写製作の工程—截金

お問い合わせ先

愛知県立芸術大学

文化財保存修復研究所

愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-114

0561-76-7611

bunkazai@mail.aichi-fam-u.ac.jp

<http://aigei-bunkazai.blogspot.jp/>

研究所開設のお披露目—10月、講座を開催しました



に催されました。

愛知県立芸術大学の日本画専攻卒業生達が制作した模写《両界曼荼羅図》（原本国宝・東寺蔵）の完成披露と文化財保存修復研究所の設立記念を兼ねて、平成26年10月に芸術講座《模写と文化財》を開催しました。学内外から約200名の参加者に来場いただき、盛況

素材・技法研究—1月、古糊を炊きました



かせない寒糊炊きをしました。これは、古糊と呼ばれる貴重な糊材料の製作で、大寒のころに炊いたものを10年近く寝かせてから使用します。

文化財修復では、一般には流通していないような材料や道具を使用することがよくあります。そのため、使いやすい道具を自ら工夫して作成したり、必要不可欠な材料を拵えたりすることも、大切な下仕事です。

平成27年1月、研究所では学生が表具の仕立てに欠

保存修復受託事業—3月、初めての納品を迎えました



初年度である平成26年度は、合計で5件（8作品）を受け入れました。

このうちの愛知県内の個人から依頼のあった屏風の応急修理1件が修理完了、平成27年3月、無事に所蔵者の元へ納品されました。今後も引き続き新規の模写や修理・修復のご依頼相談を受け付けています。

平成26年度保存修復事業作品一覧

作品名	形状	所有者	状況
絹本著色 阿弥陀如来図	軸	教圓寺	修理中
紙本墨画 金地屏風	屏風	教圓寺	修理中
絹本著色 十二天像「羅刹天」	軸	真長寺	修理中
絹本著色 十二天像「水天」	軸	真長寺	修理中
絹本著色 十二天像「伊舎那天」	軸	真長寺	修理中
紙本著色 鳴子雀図屏風	屏風	個人	完了・納品済
紙本墨書 六字名号	軸	本證寺	修理中
絹本著色 蓮如上人像	軸	福谷寺	修理中